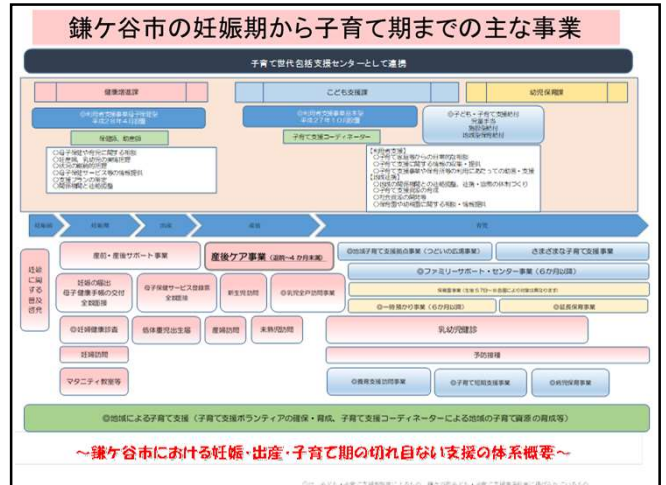


子育て世代包括支援センターと 精神科医療との連携 ～鎌ケ谷市の取り組み～

鎌ケ谷市役所健康福祉部
健康増進課母子保健係
係長(保健師) 林 恵利



鎌ケ谷市

【面積】21.08km
【地勢】
千葉県北西部に位置し、市内には、東武野田線(東部アーバンパークライン)、新京成線、北総線、成田スカイアクセス線の鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。

地域の概要

- 総人口 109915人 (令和2年11月1日現在)
- 世帯数 50388世帯 (令和2年11月1日現在)
- 高齢化率 28.1%(令和元年度)
- 出生数 698人 (令和元年度)
- 合計特殊出生率 1.22 (令和元年度)

メンタルヘルスに不安のある妊産婦への支援

	把握方法	課題	対象者の割合
妊娠期	<ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳の交付面接前に記入してもらう母子カルテの現病歴、既往歴での把握が多い 本人からの申し出が多く、治療状況やかかりつけ医、病気に対する理解等を把握しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠や出産、子育てへの不安が強く、経済面や生活に関する課題が多い 全数へのプラン作成は行っているが、メンタルヘルスの不安がある場合、より個別性の高いプラン作成が必要 	母子健康手帳交付時の精神疾患の罹患率 1.5%(既往は含まず)
子育て期	<ul style="list-style-type: none"> 産後1日目～1か月健診までの間、出産医療機関からの情報提供で把握することが多い 新生児訪問での母の様子で把握 	<ul style="list-style-type: none"> メンタルの不調に気づいていても、精神科への受診への抵抗感から診察や治療に繋がりにくい 家族の理解やサポートの不足 	医療機関からの情報提供数 53件 (7.6%) 新生児訪問での地区担当保健師フォロー数 93件 (13.3%)

子育て世代包括支援センターの概況

- 設置開始時期 平成30年4月
- 設置場所 総合福祉保健センター2Fの1ヶ所
- 利用者支援事業 母子保健型と基本型を一体的に実施
- 実施体制 直営
担当部署 子育て支援課・健康増進課母子保健係・幼児保育課
- 組織改編 無
- 産後ケア事業実施 有
- 産前産後サポート事業 有
- 母子健康手帳交付面接数 735人/年間(令和元年度)

市内の社会資源(産科・精神科医療機関)

- ・産科医療機関 2施設
- ・精神科病院(病床あり) 1施設
- ・精神科クリニック 2施設

メンタルヘルスに不安のある妊産婦への支援①

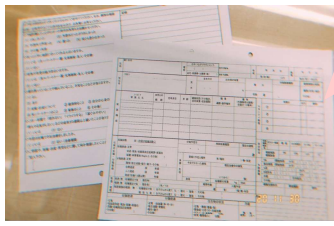
母子手帳交付時の専門職による全数面接 (保健師、助産師)

- ・メンタルヘルスの不安がある妊婦の場合、地区担当保健師による母子健康手帳の交付を実施
- ・プライバシーの確保された個室での相談対応
- ・妊娠、出産、子育て期までの相談だけでなく、障がい福祉課も同じフロアに配置されていることで、必要な相談がワンストップでできる

↓

地区担当保健師との安心して相談できる信頼関係の構築
妊娠早期からの多職種による支援が開始できる体制づくり

メンタルヘルスに不安のある妊産婦への支援②



支援につながるアセスメント

メンタルヘルスの不安がある場合

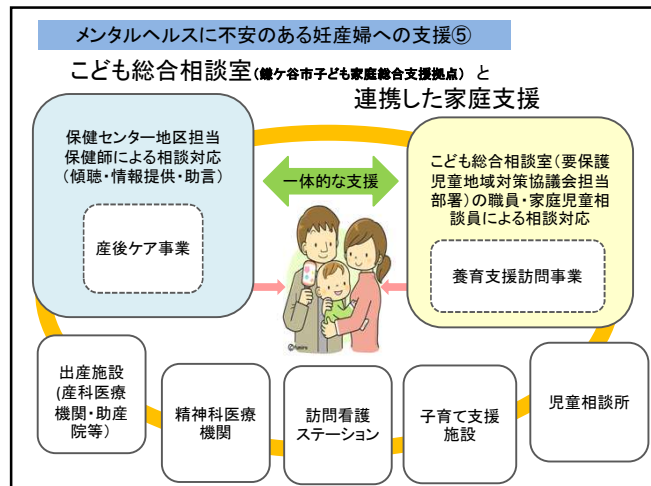
- ・既往歴
- ・生育歴
- ・家族との関係やサポートの有無
- ・妊娠への受け止め
- ・経済状況

等を中心に、本人のおかれている状況や希望を把握する。

母が、体調に合わせてどんな出産や子育てを希望しているか
その中で保健師がどう関わることができるのか伝えていく

↓

安心できる妊娠期間と希望する出産や子育てのイメージを
母と支援者が一緒にイメージできることが大切



メンタルヘルスに不安のある妊産婦への支援③


精神保健嘱託医を交えた多職種での事例検討

・月1回、精神科クリニック医師との事例検討会を開催し、対象者のメンタルヘルスについての状況分析、治療の必要性、支援内容について検討

現役の精神科医から、保健師や支援に関わる職員が、どのように医療機関と連携すべきか意見をもらえる場ともなっている

・事例提供はどの機関からでも可能とし、困難性の高い対象者について、多職種での情報共有、意見交換

参加者
精神科医師、保健師、虐待部門の保健師や臨床心理士、社会福祉士、障害福祉に関わるケースワーカーなど



顔の見える関係づくりと、支援の方向性を共有

まとめ

メンタルヘルスに不安のある家庭への支援で大切なこと

- ・対象者との信頼関係の構築
- ・丁寧な情報収集とアセスメント
- ・医療機関をはじめ、関係機関との情報共有役割分担

Point
対象者の希望に沿った関わり方を常に確認すること


メンタルヘルスに不安のある妊産婦への支援④

効果的な医療機関との連携

精神面への継続的支援体制の構築

<地域から発信できるポイント>

- ・本人の体調や困っていること
- ・地域から見た本人の環境や生活の様子
- ・本人が希望する生活



↓

病院と地域での連携を図ることで、医療機関の役割や地域での具体的な支援サービスの導入(産後ケア、養育支援訪問等)を検討することができる